

# 会 議 録

(文責：立石)

会議の名称	那珂川市社会教育委員 第3回会議		
開催日時	令和5年11月20日(月) 19:00~20:40	開催場所	那珂川市中央公民館 講堂
出席者	【委員】 池田委員、坂井委員、山崎委員、渡邊委員、明星委員、 谷川委員、平野委員 【事務局】 齋藤社会教育担当指導主事、立石社会教育主事		
配布資料	・ 次第 ・ 資料 2 令和5年度福岡ブロック社会教育委員研修会実施要項 ・ 資料 3 令和5年度福岡県社会教育研究大会開催要項		
委員長	1. 委員長あいさつ		
委員①	3. 議題		
委員②	○令和6年度筑紫地区社会教育委員研修会の内容について		
委員③	コロナ以降、子ども・若者の自殺願望が上がっているとのことで、すごく不安である。社会教育として、もう少し踏み込んで考えていきたい。		
委員④	子どもの虐待、貧困、自殺、家庭環境などが気になる。		
委員⑤	那珂川では、子どもの権利条例もできたので関連させてはどうか。		
委員①	高齢者の体力低下やデジタル機器を使いこなせないのが気になる。		
委員長	研修会に参加する人は、元々、様々な課題に対しての関心が高い人であり、参加しない人に情報を届けるのが難しい。		
委員①	最近の子どもは、死にたいと軽々しく言うし、怒られ慣れていない。いかに強く、社会で生きていけるように育てるか。厳しいことを言って、乗り越えさせることも必要ではないか。		
委員①	子ども達は、コロナ禍で行事がなくなり、色々経験できなかった。また、行事がないので、不登校の子を引っ張ることが難しかった。		
委員長	中高生に、何もできなかった、当時の気持ちについてのアンケートを取れないものか。それを素材にして、大人の携わり方についての研修ができるので		

委員⑤	<p>はないか。また、小学3年生ぐらいの子たちは、前を向いて給食を食べるのが普通になっていて、向き合っ食べる経験がない。そういった意見を聞くことで、気づくことがあるのではないか。</p> <p>大学生もコロナの影響を受けている。授業はリモート、サークル活動も部活動もなかった。そういう経験を抱えて、引きずっている子もいる。</p>
委員⑥	<p>最近、子ども達の自主性がなくなっているように感じる。ジュニアリーダーもいなくなった。自分で考えて行動する力がなくなっている。</p>
委員⑤	<p>そういう場が減っているの、異学年とのコミュニケーションなどを学校や社会教育の中でやっていかなければならない。</p>
委員長	<p>区では、この行事しなくてもよくないという意見が出るようになった。大人の自主性が足りない中で、子ども達に自主性を与えるのは難しさがある。</p> <p>今回たくさんの意見が出た。来年に向けて、事務局と話しながら、集約していくという流れでよろしいか。</p> <p>無戸籍の子ども達の現状についても気になっている。行政も、無戸籍だから、把握が難しい。どこにいるのかが分かりにくい。そのことを知って欲しいという思いがあるが、皆さんの意見も尊重すべきと感じた。</p>
事務局	<p>皆さんの意見をまとめると、地域社会における子どもを取り巻く現状と課題になる。可能なら、講師に全体の現状を話してもらい、共通理解を図ったうえで、高齢者、マイノリティなどで分散会を行うというやり方もある。</p>
委員長	<p>大人がまずすべきことは、今の子ども達を知ることだと感じる。その辺りを踏まえて、来年に向けて話し合っていきたい。</p>
事務局	<p>4. 報告</p> <p>(1) 福岡ブロック社会教育委員研修会について</p> <p>福津市で開催され、事務局 2 名で参加した。伊藤克治先生が、コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的な推進について話された。パネルディスカッションでは、太宰府と宇美町と宗像市から実践発表があった。太宰府市は、子どもの日ということで、札を立てて、呼び掛けている。宇美町は、地域学校協働活動と一緒にやっている。宗像市は、中学校の実践を中心に、地域で活動しているが、社会教育委員が結成されていない。</p> <p>(2) 福岡県社会教育研究大会について</p> <p>新宮町で開催され、事務局 2 名で参加した。文科省と国立政策研究所の講師が、デジタル化やコミュニティスクールと地域協働活動の一体的推進などを説明された。本市は、一体的推進はある程度進んでいると感じている。デジタル化については、学校が進んでいる一方で、社会教育は、公民館で、Wi-Fi が使えないところもあるなど遅れている部分がある。</p>
委員④	

<p>委員長</p>	<p>公民館に Wi-Fi 整備は、意外とハードルが高いようである。個人契約でも法人契約でもなく、キャリア側から断られることがある。</p>
<p>事務局</p>	<p>公民館は、土地や建物の所有者が複数名いることがあり、当初の契約がどうなっているかわからない場合がある。契約者を誰にするかも問題となる。区長にすると、代わった時にやり替えが必要になる。まずは、行政管理の公民館に Wi-Fi をつなげることからではないか。</p> <p>施設の整備については、国の補助事業などがあり、市としてもアンテナをはって、必要に応じて活用していきたい。</p>
<p>委員⑥</p>	<p>(3) 九州ブロック社会教育研究大会について</p> <p>宮崎市で開催され、委員 2 名が参加した。上野誠先生と伊藤一彦先生の特別対談で、自分と正反対の考えを持つ人の意見も、頭から拒絶せずに寛容な心を持って聞く耳を持てば、気付かなかった何かしら得るものがあると言われたのが印象的だった。</p> <p>シンポジウムは、誰もが生きがいを感じられる地域社会の実現、社会教育の学びを生かし、人と人をつなぐというテーマで、5 人の方がお話しされた。清國祐二先生が、自分が発案して立ち上げた活動が、後継者がおらず、活動がなくなったので、継続的な取組ができるような仕組みづくりが必要であると言われたのが印象的だった。</p> <p>社会教育委員の役割をテーマとした分科会では、東京都昭島市の発表が印象に残った。地域のつながりを育てる取組が不足していたため、市民のニーズをとらえる、活かす、つなげるという観点で、意見や思いを表明する場、活動を互いに共有し、つながりをつくり、市の未来を語り合う場などを目指してあきしま会議を開催されている。社会教育委員は、実施に向けた計画と、当日の運営を担う。社会教育・市民活動をされている方や関心のある方が参加する。募集は、市の広報誌やチラシの他に、社会教育課職員や社会委員、過去の参加者による声掛けをしている。</p> <p>会議の流れは、5 名ほどのグループで、その内の 2 名が、団体の活動の概要や課題・学びなどを報告する。社会教育委員が、ファシリテーターを務め、報告について話し合うことで、共通する課題や協力の可能性などが浮かび上がる。これまでに 50 団体ほどの参加があった。参加者は、小中学生から高齢者まで幅広い。自分達の活動をアピールする場にしてあるので、参加数が増えた。また、若者の参加で、活動が活発になってきている。個人として参加した中学生が、高校に進学した際に、同級生に声をかけて地域団体を立ち上げて、環境活動、学習支援活動を中心に展開し始めた。</p> <p>本市で行っている各団体の活動発表の拡大版のようなものを、市民レベルに広げて、取り組んでいる。目指すべき好事例だった。</p>
<p>委員長</p>	

事務局	<p>会議では、QRコードを読み、質問を入力すると、前のモニターに表示され、先生が回答するというような取組があった。来年の研修などで取り入れても面白いと感じた。</p> <p>5. 今後の予定</p> <p>(1) 筑紫地区社会教育委員研修会について 本市からは、委員5名と社会教育課2名が参加する。</p> <p>(2) 那珂川市社会教育委員の会第3回研修会について 12月18日に開催予定であったが、講師が決まっておらず、延期する。詳細が決まり次第案内する。</p> <p>(3) 那珂川市社会教育委員の会第4回会議について 1月22日に開催する。筑紫地区研修会と来年度の活動を議題とする。</p> <p>(4) 那珂川市公民館大会について 2月11日に中央公民館で開催される。</p> <p>【質疑なし】</p> <p>6. その他 社協情報の編集委員から社会教育委員の手引きについて取材を受けた。</p> <p>●閉会 次回会議は、1月22日(月) 19:00~とする。</p>
-----	---